

1. 「令和4年度学校評価」の結果から

これまで「児童」「保護者」「教職員」と3回にわたり、本校の「令和3年度学校評価」の結果を掲載してまいりました。今回は、その中から「肯定的意見の割合が80%未満」のものを挙げてみます。

まず「児童アンケート」ですが、20項目中4項目が該当します。数値の低いものから順番に列挙します。

- ① 家庭学習を60分以上（高学年）している（70%）（昨年度：57%）
- ② 自分からあいさつをしている（77%）（昨年度：64%）
- ③ 悩みや不安があるときに、相談しようと思う先生がいる（78%）（昨年度：64%）
- ③ 身のまわりの整理整頓を心がけている（78%）（昨年度：69%）

次は「保護者アンケート」です。21項目中1項目が該当します。数値の低いものから順番に列挙します。

- ① 学校の図書の日や読書指導は、子どもの読書意欲を高めている（77%）（昨年度：78%）

最後に「教職員アンケート」です。20項目中0項目でした。

この結果を通して、摂陽小学校としての課題は「学力向上」である、ということがわかります。そして、そのための手立てとして、「学習習慣づくり」、「基本的生活習慣の確立」、「教育相談活動の充実」により一層取り組む必要があります。

「学習習慣づくり」においては、伊丹市ではドリルパークが導入され、タブレットを有効活用した学習形態を検討してまいります。「基本的生活習慣の確立」においては、普段からのあいさつを心がけるとともに、落ち着いて学習に取り組めるよう生活習慣の確立を目指していきます。「教育相談活動の充実」においては、普段から児童とのコミュニケーションを図るとともに、子どもたちと向き合う時間の確保に努めてまいります。

また、保護者アンケートでの「読書意欲を高める実践について」は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、図書館の利用や読み聞かせなどを制限していたことが大きいと考えられます。

私たち教職員は、子どもたちの意見やことばに耳を傾け寄り添うことに、これまで以上に取り組まなければなりません。そして、子どもたちの良さを認め、伸ばすことに力を入れる必要があります。学校生活の中で、自分の力を発揮できる場所があるということが、自分の居場所があるということにつながり、そのことが「学校へ行くのが楽しい」ということにつながるからです。

本校ではこれらの結果を受け、3学期から、また新年度に向けて、新型コロナウイルス感染症対策も進めながら、一人ひとりの理解を高める取り組みを充実させていくなどの具体的な方策を挙げて取り組んでまいります。

ご家庭でもご理解、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

※今回の「学校だより」では、「令和4年度学校評価」の結果からどのように改善していくかについてを一部掲載させていただきました。「学校評価」については教職員はもちろん、学校運営協議会委員の皆さまとも話し合い、「令和4年度学校評価総括表」としてホームページで公表いたします。そちらもどうぞご覧ください。